

グリーンコープの市民発電

自然電力太陽光発電所

グリーンコープは、エリア内各地に自然エネルギー発電所の建設を進めると共に、組合員に電気を供給、電気の共同購入する準備をしています。その電気を確保するため、発電所建設はグリーンコープ独自で進めるだけでなく、思いを同じくする団体とも協力して取り組んでいます。

2月11日、大分県国東市に建設された国東武蔵第二自然電力太陽光発電所（以下、国東太陽光発電所）が完成し、記念講演会とシンポジウムが行われました。

国東太陽光発電所は、自然電力グループにより開発・運営され、グリーンコープは建設費用の一部を資金協力することで発電した電気の半分を確保することになります。

おおいたでの検討のようすと、記念講演の要旨、自然電力株式会社について紹介します。

おおいたでの検討

脱原発をめざし太陽光発電に踏み出す

おおいたでは、自然エネルギー発電所をつくりたいと候補地を探していたが、なかなか見つからなかった。そんな中、自然エネルギー発電を拡大したいという思いを持つ自然電力株式会社と出会い、自然電力グループが開発を検討していた国東太陽光発電所に共に取り組む検討を始めた。2015年6月から理事会や現地に近い大分県北・別府センターの運営委員会を中心

心に現地を見学し、様々な意見を出し合った。検討では、温泉熱や水力などの資源も豊富な大分県でなぜ太陽光なのか、夜間発電しない太陽光は非効率ではないか、経営面は大丈夫かなどの意見も出された。温泉熱や小水力は検討したが現段階では難しいことが分かった。また、自然エネルギーにはそれぞれ特性があり、需給の予測を立てて他のエネルギーとうまく組み合わせることで効率的に利用できる。それらを考え合わせ、皆で共有する思い「おおいたで発電所をつくり、脱原発をめざす」を実現するために、今一番取り組みやすい太陽光発電に踏み出すという結論を出した。

今後は組合員全体に丁寧に説明し理解を求め、グリーン電力出資金に参加してくれる組合員が増えるよう理事会を中心に取り組んでいく。

完成記念講演

環境エネルギー政策研究所 所長 飯田 哲也さん

自然エネルギーによって、脱原発社会の実現をめざそう！

自然エネルギーは世界で急速に拡大

世界的に、自然エネルギーによる発電が急拡大している。それによって、地球温暖化対策サミットも成功した。今、世界的大企業や都市が自然エネルギー100%を目標に掲げている。2015年末に世界全体の風力発電の発電容量が原発を追い抜き、2017年末には太陽光が追い抜く見込みだ。

自然エネルギーは、**ほとんど安く**なる

太陽光や風力発電における技術革新は著しく、発電効率が上がったため、発電コストは下がっている。しかも一旦設備が整えば、その後の燃料費はタダとなる。欧米では、この5年間で太陽光や風力発電のコストは2分の1から3分の1にまで下

つがある。今後さらに普及することでコストが下がり、電気料金も安く

一方、原発建設のコストは上がり続けている。現在建設されている原発は、メルトダウンや水素爆発等に対応した設計になっており、多額のコストが必要になった。フィリピンやフランスでは、未完成のまま頓挫した原発もある。

大規模独占型から小規模地域分散型へ

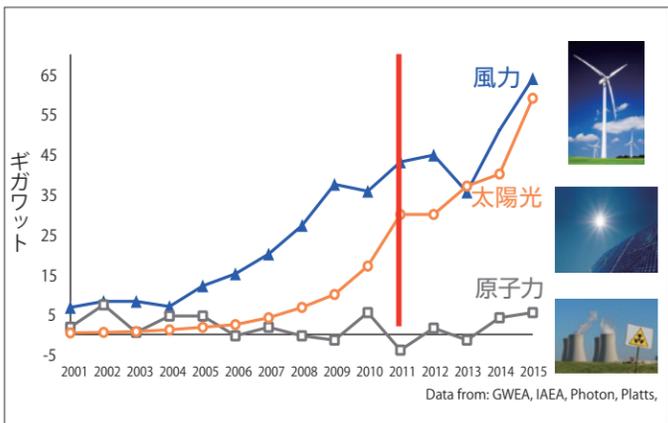
かつてデンマークでは、電力会社2社が大型火力発電所で発電していたが、現在では全発電量の70%が小規模地域分散型の自然エネルギー。しかも風力やソーラージェネレーション発電所の8割を、立地している地域の人たちが所有している。

日本でも、市民が出資した自然エネルギー発電所が次々に立ち上がっている。一つひとつは小さな発電所だが、自分たちで自然エネルギー発電所を所有することで地域に雇用を生み出す。住民が支払う光熱費が地域に返っていき循環することで、経済的にも将来性のある地域づくりができる。太陽光はどこでも公平

太陽光発電でも安定供給が可能に

天候に左右される自然エネルギーは、不安定で供給が難しいと言われていたが、近年気象予測の精度が目覚ましく向上し、変動に対応して他のエネルギーと調整することで、安定して供給することが可能になった。例えばドイツでは、夏の電力消費ピーク時に発電量が増え

加速する自然エネルギーの拡大



時に、市民がグリーンコープの電気を選ぶという形で実現されることを期待している。



No.91

3.11から5年

今もなお18万人以上の人々が避難生活をおくられています。現地の様子が報道されることも少なくなって、原発事故のその後の様子を知る機会が減り、まるで収束したかのように感じられます。

しかし現状は、福島原発の原子炉内部の調査用ロボットは戻って来られない状態で、どうなっているのか誰にも分からず、汚染水も毎日出し続けています。このように、5年経っても事故の後始末もできないまま、再稼働をすすめていることに大きな憤りを感じます。

4月から電気を選ぶようになります。健康な暮らしや生命と引き換えにしてまで、原発の電気を選びたくないと思いませんか。何を基準に選ぶのか、私たちの選択が未来をつくっていきます。自然エネルギーによる電気を選びましょう。子どもたちに安全な未来を手渡すために、今こそ意思表示をしていきましょう。

グリーンコープ共同組織委員会

換ダト

一

め3た)万て

一般社団法人グリーン・市民電力から

ひろがれ! 私たちの発電所

グリーンコープ・グリーン電力出資金
7,925人 876,472,000円
(2016年1月25日現在)

「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いをかなえるために、グリーンコープ・グリーン電力出資金に協力しましょう

2015年12月の売電量

神在太陽光発電所売電量 54,140kWh 定格出力1,057kW(280世帯相当)	広島物流センター太陽光発電所売電量 3,291kWh 定格出力47kW(13世帯相当)
若宮物流センター太陽光発電所売電量 2,404kWh 定格出力47kW(13世帯相当)	グリーンコープやまぐち生協西部地域本部太陽光発電所売電量 2,326kWh 定格出力54kW(15世帯相当)



広がるグリーン

くにさき むさし 国東武蔵第二自然

グリーンコープと共に 自然エネルギーの普及に取り組む

自然電力株式会社

—代表取締役の川戸健司さんに話を聞きました—



代表取締役の3人。左から、川戸さん、長谷川さん、磯野さん

エネルギーから世界を変える。 熱い思いで未開拓の領域に挑み続ける

自然電力株式会社（以下、自然電力）は、「自然エネルギーで世界を変えたい」と、2011年に3人の若者が立ち上げたベンチャー企業。川戸健司さん、磯野謙さん、長谷川雅也さんは、それぞれに環境問題や地域の活性化などに関心を持ち入社した風力発電事業会社で出会った。東日本大震災と原発事故を機に、改めて自然エネルギーを普及させたいという思いを強くした。自然エネルギーによる発電が環境問題を解決するだけでなく、売電利益を地域に還元する仕組みをつくる

自然電力グループ

- 自然電力株式会社
自然エネルギー発電所の開発・企画・資金調達
- juwi(ユーイー)自然電力株式会社
自然エネルギー発電所の設計・調達・建設
- juwi自然電力オペレーション株式会社
自然エネルギー発電所の運営・保守
- 自然電力ファーム株式会社
農産物の販売、販促マーケティング業務

れば、多くの人が賛同するはずだと考えた3人は、起業して取り組むことにした。
ドイツのトップ企業と事業提携
思いが先行して事業を立ち上げたものの、ベンチャー企業には信用もなく、当初仕事はなかった。そんな中、自然エネルギー先進国のドイツを視察。世界トップレベルの自然エネルギー企業juwiと出会う。3人はjuwiに対する思いに共感、この会社と組みたいと意見が一致した。2013

売電利益を地域に還元
2012年に再生可能エネルギー固定価格買取制度（以下、FIT）が施行され、社会的に自然エネルギーへの関心が高まる。2014年には、農業が盛んな熊本県合志市と地元企業との三者の事業が地域還元型再生可能エネルギーモデル早期確立事業に採択され、合志農業活力プロジェクト太陽光発電所が実現した。売電利益の一部が地域に還元され、用水路や農機具の修復、農産物をブラ

グリーンコープとパートナーシップを築く
現在グリーンコープに資本協力を受けて建設している発電所が2カ所。今後も一緒にできること

※3 再生可能エネルギーで発電した電力を一定期間、固定価格で電力会社が購入する制度。発電所建設コストの回収の見込みが立ち、再生可能エネルギーの普及が進むと考えられる。
※4 農林水産省から売電収入を地域に還元する事業に対し無利子融資が行われた



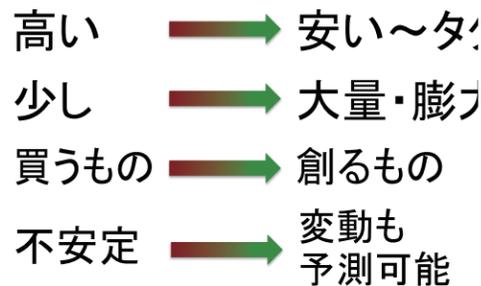
いだ 哲也さん

山口県生まれ。原子力産業や原子力安全規制などに従事後、「原子カムラ」を脱出し北欧での研究などを経て現職。日本政府や地方自治体のエネルギー政策に大きな影響を与えている

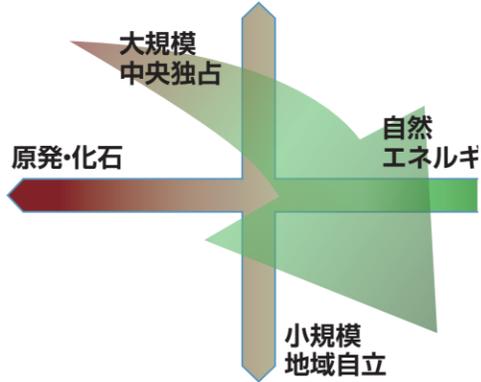
がった。燃料費の高い化石燃料発電は押し出され、自然エネルギーの市場が急成長、今や主流となり

る太陽光発電を利用することで、電気料金を安く抑えることもできている。

「自然エネルギー」への認識転



2軸のエネルギーシフト



グリーンコープ・グリーン電力出資金 ご協力をお願いします

グリーン・市民電力は発電所を建設するために、約60億円の費用を必要としています。その分の1の20億円を組合員による出資金で賄いたいと考えています。2016年1月現在の出資金は約8億7600円(約8千人)。私たちの市民電力発電所を広げいくために、電力出資金にご協力ください。

「グリーン電力出資金」出資者の会の会報の発行が、アン



は協力し合いたいと考えている。グリーンコープの40万の組合員による発電所づくりに関わることでできるのは、非常にうれしいことだと川戸さんは言う。
自然エネルギーをもっと広げていくために
現在はFITという優遇制度があることで広がっている自然エネルギーだが、今後普及させるためには、価格を抑えること、安定して供給できることが課題になる。自然電力ではjuwiのノウハウを活かすことで、近い将来実現できると考えている。グリーンコープをはじめ理念を共有できる仲間と手を携え、自然エネルギーを広げることが、世界を変えることにつながっていくと信じ、自然電力は未来に向かい道を開き続ける。